

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No.64 号
2024. 5

発行: NPO法人
みどりの市民
〒380-0948 長野市差
出南 2-14-23 フンゲ
イ印刷ビル3F
発行人: 高木直樹

環境危機と NPO 法人の役割

代表理事 高木直樹

みどりの市民を設立して 20 年経ちました。私にとっては、子育ての時期とも重なり、あっという間の時間でしたが、みどりの市民の会員の皆さんにとってどのような時間でしたか？皆さんが充実感を感じることができる時間であり、みどりの市民がその一部でも役割を果たせたのであれば幸いです。

設立のころを振り返ってみます。みどりの市民はながの環境パートナーシップ会議（以下 P 会議）の設立に同期して 2003 年に立ち上がりました。2000 年頃の長野市においても環境活動をしている市民団体は多数存在していました。京都議定書の発効に伴い、それまでの自然保護を主な課題とする環境問題に加えて、温室効果ガス排出量の削減、海洋汚染や酸性雨など地球規模の環境問題が台頭してきて、市民が集まって活動しているだけでは、力不足を感じる場合が多くなりました。そこで、市民、事業者、行政が協力して長野市内で様々な環境課題に立ち向かうための組織として P 会議が設立されました。近年ではこうした団体は全国に多くありますが、当時としてはかなり先進的な事例でした。

P 会議の役割として、市民が行政や企業と協力して活動することが求められました。そこで運営を市役所に任せるのではなく、また責任ある運営を行うために非営利特定活動法人（NPO 法人）を設立して、P 会議の運営に協力する体制づくりを検討した結果、みどりの市民が設立されました。したがって当初の設立目的としては、P 会議を支えるプロ集団ということでした。しかし、少し時代に先行しすぎたきらいがあり、行政は予算を出すのだから手元に運営を置きたい、事業者は趣旨には反対しないが、企業として出資して活動を支える義務はない。市民は自分たちがやりたい活動をしたから、他の活動には手を広げたくない。というように意思の疎通が悪く、パートナーシップにより活動をダイナミックに展開するという P 会議本来の設立趣旨に沿った活動がうまく動きませんでした。そのため、その運営組織としてのみどりの市民も NPO 法人の特性を生かした社会的に責任のある活動を積極的に展開することができませんでした。

活動に行き詰まりを感じていたころに理事会で検討して、「こうあるべきだ」的な大局観のある活動だけではなく、自分たちがやりたい環境活動を NPO 法人として支えていくというように活動方針の変更を行いました。それが今まで続いています。

今では産官学民による協働運営による環境活動はあちこちで行われています。その裏には環境活動が環境ヲタクによる自己満足のための活動ではなく、社会にとって必要不可欠な活動だという認識が当たり前になり、脱炭素が行政・企業にも主要なテーマになったという時代の変化が大きく影響しています。そうした社会の実

現を目指して環境 P 会議を設立し、みどりの市民を設立したのですから、みどりの市民がそうした社会の変化にどれだけ影響を与えたのか？ということとは別として、時代を読んで社会の変化に寄与してきたのだと考えています。さらにこれからはこれまで以上に、市民、事業者、行政の協働により脱炭素社会の実現を目指す必要があります。NPO 法人みどりの市民の果たすべき役割はこれからはますます重要になっていくと考えています。

設立当初のメンバーを中心にしてこれまで活動をしてきたみどりの市民ですが、次のステップとして新しいメンバーによる運営をしていく必要があります。会員の皆さんはそれぞれやりたい環境活動があると思います。これまでの活動も活かしながら、これまでの活動に束縛されることなく、みどりの市民でご自分の思いを実現するために積極的な参加、知り合いや友人を誘い込んで新たな動きを作ってみませんか？これからの時代にとって NPO 法人格を持つみどりの市民だからこぞできる活動を目指せばいいのです。新しい流れを産み出せる活動につながることを期待しています。

「全国スーパー環境調査」への参加 結果報告

～長野市内スーパーの「はだか売り」状況は全国平均より高い～



2020 年 7 月のレジ袋有料化以降、レジ袋辞退率は約 8 割に達し、マイバッグ持参が当たり前になってきた一方で、相変わらず毎日の生活での「プラごみ」の量にうんざりしている人も多いのではないだろうか。そんな思いを強くしていた昨年秋、認定 NPO 法人「環境市民」から「みどりの市民」に、全国スーパー環境調査の協力依頼があり、10 月と 11 月に長野市内の 4 店舗で調査活動を実施しました。以下は、その調査内容と結果報告です。

この調査の目的は、2023 年のスーパーマーケットの店頭での「プラスチックの使用状況」「プラスチックを減らすための取組み状況」を調べ、SDGs の目標年である 2030 年に向けて、減らす努力をしているスーパーマーケット等を支援することです。

この調査の目的は、2023 年のスーパーマーケットの店頭での「プラスチックの使用状況」「プラスチックを減らすための取組み状況」を調べ、SDGs の目標年である 2030 年に向けて、減らす努力をしているスーパーマーケット等を支援することです。

調査は、「みどりの市民」会員、シニア大長野支部のスタッフ等合わせて 6 名で実施。事前打ち合わせ・学習会などを重ねて調査しました。

調査対象店舗は、協力が得られた西友 2 店舗、ツルヤ 2 店舗の計 4 店舗。

調査日は、10 月 17 日、30 日、11 月 9 日。

時間帯は、お客に迷惑をかけない 13 時～15 時。

調査方法は、右記の 5 項目について直接店舗に行き確認。

《調査内容》（46 団体が参加し、136 店舗の調査）

- ① 店頭回収ボックスの設置状況
- ② 青果物売り場のはだか売り商品の売り場面積及び商品点数の調査 【対象商品：大根、ニンジン、ジャガイモ、トマト、タマネギ、きゅうり、キャベツ】
- ③ 精肉、鮮魚、総菜売場でノートレーでの販売
- ④ 乾物、菓子、日用品売り場他ではかり売り
- ⑤ サッカー台（お客さんが購入した商品を詰める）などのロール状のプラスチック

まとめは、集計等を「環境市民」で行い、全国の調査結果は 2 月に報告されました。

*****《全国調査結果概要（環境市民報告書より）》*****

- ・ペットボトルの有償回収は、回収実施店の 4 分の 1 程度。
- ・青果売り場の「はだか売り」率は棚面積比 20.1%。商品点数比 17.0%。
- ・青果売り場の「はだか売り」率に東高西低の傾向が見られた。
- ・レジ袋については全国一斉有料化の実施前後、削減が進んだが、サッカー台のプラ袋等、他の使い捨てプラ削減の取り組みは弱い。



《長野での調査結果》

- ・牛乳パックと発泡トレイの店頭回収は4店舗で行われていたが、リターナブルビンの回収は2店舗のみ。
- ・青果売り場の「はだか売り」率は棚面積比 24.6%、商品点数比 23.6%であり、いずれも全国平均より高い。(詳細版が8割を占めるため単純比較はできない)
- ・精肉、鮮魚、総菜売場でのノートレイは、袋入り販売が鶏肉、カニ売り場でそれぞれ1店舗ずつ。乾物、菓子、日用品のはだか売りの取り組みはなかった。
- ・サッカー台などロール状のプラスチックの設置は4店舗すべてにあり積極的な削減の呼びかけはなし。

《「みどりの市民」の報告会(4月8日)での意見と提案》

- ・タマネギなどの根菜類は、「はだか売り」、「ばら売り」でも良いのではないかと。しかし、ハウレンソウなどの葉物野菜は野菜の劣化が懸念される。・キュウリやナスの最盛期は「はだか売り」・「ばら売り」だが、旬が過ぎると袋入りで高級感を出しているなど、売る側の立場も理解できるといった意見が出た。
- ・提案としては、店舗にエシカルコーナーを作ってはどうか。「お客様の声」コーナーを利用して提案を店舗側へ届ける。議員等へ働きかけて条例制定を実現する。等々。

《まとめ》

プラごみをどのようにしたなら減らせるか。そのためには、消費者の意識を変え、プラごみが出ないシステムの構築が求められます。法律で野菜・果物のプラスチック包装禁止となっているフランスでは、「はだか売り」が6～7割だといえます。今回の調査で、日本では「はだか売り」は約2割という結果が出ました。身近な販売店や私たちの消費行動をグローバルなSDGsに結びつけるには、辛抱強い意識啓発と社会全体の取り組みが必要ではないかと強く思いました。

(報告:渡辺ヒデ子)

もったいない交換市 《地域資源循環推進プロジェクト》 ～生ごみ減量アドバイザー例会&どんぐりるるネット交流会～

生ごみ減量アドバイザーは2005年(平成17年)、るるネットは2012年(平成24年)の竹パウダー竹チップの活用プロジェクトからそれぞれ始まった事業です。

2024年3月7日ふれあい福祉センターで「生ごみ減量アドバイザー例会」と「どんぐり・るるネット交流会」が合同で行われました。参加者はアドバイザーとるるネット会員合わせて15名と竹チップを提供している淡竹会の松橋さん、又運搬を担当しているエコファミリーから山本さんと利用者さんとスタッフの米山さんの参加で計20名ほどになりました。



会は事務局からの「るるネット 2023年度の活動報告」からはじまり、生ごみへの想いやるるネットへの感想など自己紹介をした。いよいよ「もったいない交換会」。自分

では使わないグッズや、自家製の正真正銘のオーガニックの大根干し、又自分の家で育てた苗や採取した種などを交換。花の種は次の人の手に渡り、世界でただ一つの花を咲かすことでしょう。エコーンさんは自慢の美味しい「おたっしや豆腐」を持参され、参加者は今晚のおかずにと喜んでいました。

今年で3回目となったもったいない交換市ですが、今後も継続して、もっと大勢の方の参加で、気軽にもったいないの交換の場づくりとなればと願っています。



《エコサロン&エシカルワーク》

古布団をリフォームして可愛い座布団づくり

綿布団が敬遠され、粗大ごみとして廃棄してしまう昨今です。エコサロンから発展したエシカルワークは3年目を迎えました。今回は「信州環境カレッジの地域講座に登録をして助成を受け、「何度も使用できる天然綿の良さ」を見直し、「その技を継承していくこと」の意義を考え伝えようと「古布団をリフォームして可愛い座布団づくり」を行いました。



綿の花



2月3日(土)午前中ふれあい福祉センター5階ホールで開催。最初に、みどりの市民からはエシカル消費についてのお話。続いて講師の箱山さんから、現在、綿を栽培し普及する活動をしているという報告があり、参加者に綿の種が配布されました。そして布団職人の塚田さんから、布団に綿を入れる技を手取り足取りで伝授していただきました。最初は慣れない手仕事に悪戦苦闘していた受講生たちでしたが、最後見事な職人さんの手さばきは小座布団が見事に出来上がり、みんな明るい笑顔になりました。長野寝装組合の箱山布団店と塚田布団店の協力に心より感謝です。

綿の布団は現在では少数派になりつつありますが、「エシカル」の考え方は、少しずつですが認知されてきているように思われます。昔から伝わる綿の布団は何度も繰り返し使え、その温かさは、究極のエコです。かつては当たり前だったことが、効率と便利を追い求める時代の流れの中で失なわれていることが多々あるのではないのでしょうか。このような講座が「本当の豊かさとは何か」を考えるきっかけとなり、未来の子どもたちに繋がることを期待します。



マイ小座布団のできあがり！！

《エコサロンとみどりの市民》 エコサロンはみどりの市民のルーツの一つ

エコサロンはみどりの市民の設立当初から始まった最初の事業です。コンセプトは「環境・実践・楽しく」とし、テーマは「暮らしの中の身近なものでサロン風セミナー」としました。対象は主婦層を中心とする一般市民。最初のエコサロンは「生ごみ堆肥化講座」。それが「生ごみの減量と堆肥化」へ、そして「生ごみ減量アドバイザー、人材育成」へと繋がり、今日の長野市の委託事業に至っています。

エコサロンのテーマは、省エネ、ごみ、はっこう食品、エコ調理、大豆料理、卵など様々です。最近では、「エシカル消費（倫理的消費）」などのテーマも取り入れ、一般市民へ分かりやすく、具体的に環境問題を伝え、行動へつながる学習の場としています。

エコサロンはこれまで20年間実践してきました。助成金などで予算付けがされた場合は、専門講師をお願いすることがありましたが、事務局以外はほぼボランティアスタッフにより運営してきました。支えていただいた方々に感謝です。

【エコサロンの実践回数：125回、参加者：1990人】

発展したもの：ロハスカフェ(ロハスをテーマ) (2006年～2008年)

エコアクティブ塾(小学生対象) (2005年～2023年) 現在も継続中です。

∞∞∞∞事務局を支えているスタッフのメッセージ∞∞∞∞

橋を渡って

ボランティアスタッフ 塚田裕子

昨年12月に事務局が若里から裾花川を渡って安茂里へと引っ越しをしました。鬼無里に源を発し犀川へと流れ込む裾花川。この川に架かる橋の中でも馴染みの橋は4つ、まず県庁に近く一番古い「相生橋」には「昭和10年11月2日」と刻まれ、野菜を摘んだりヤカーを引いて渡ったという若き日の母の昔話に出てきます。

800mほど下流の国道19号線上のその名も「裾花橋」は、かつて洪水のたびに流された木橋をどんな水害にも耐えられる永久橋として人々の期待を背負って架け替えられたのだそうです。東橋詰のプレート脇には、岐阜県の花れんげ草と愛知県の花かきつばたが、西詰には長野県の花りんどうと安茂里地域の杏の花のレリーフが彫られているのは、行く手の土地へとつながる懸け橋の役目を示しているかのようです。

三つ目の橋は「長安橋」と呼ばれているのですが橋の名はどこにも見当たらず、両側の歩道が広めなのは、橋の東側に小学校が西に中学校がある毎日の通学路だからでしょう。春には遥か北アルプスの残雪の峰々が眺められ、小学校のポプラ並木から飛んできた綿毛がふわりと舞い降りる橋の眺めは子どもたちの思い出のどこかにしまわれて、そうそう右岸の味噌工場からは大豆を煮る甘い匂いが漂ってきます。

そして最も下流に架かり一番若い橋が「あやとり橋」です。中央に聳える2つの塔から橋桁へと斜めに幾本ものケーブルが張られた斬新な姿に、完成当時募集した橋の名前もこれしかないとするなりと決まったといいます。風の吹く夜はそのあやとりひもがハーブの弦ともなり秘かな曲を奏でるのかと想像はふくらみます。

このあやとり橋が新事務局窓辺からくっきりと望まれ、橋の向こうにはこれから合流する犀川の流れが白く光っています。

【塚田さんの紹介】：塚田さんは2010年(平成22年)からみどりの市民をボランティアスタッフとして支えています。担当しているのは、経理と庶務。弥生会計の入力の正確さ、字もうまさは、誰もが認めるどころです。いつの間にか古い封筒がリユースの封筒になっていたり、事務用品がきちんと整理されていたりと、整理の苦手な私とは大違い。ちょっと細身なのが心配ですが、毎朝の散歩と自転車と公共交通機関利用の暮らしぶりは、まさにエコライフの実践者。みどりの市民にとってかけがえのない存在です。(文責：事務局担当渡辺)



最下流のあやとり橋

あの素晴らしいキセキから学んだことは?!

生ごみコーディネータースタッフ 松本玲子

キセキその2 4/26 事務所で仕事の後、地区の自治協総会に出席のため、急ぎ城山公民館へ。車内は暑く窓を全開に！教育学部の信号を右折したとき、助手席に被せていた帽子が窓から飛び出す。部会出席の開始時間が間近のため、車を止めて探すことも出来ず会場へ。

幸いにも部会が短時間で終了。折り返し大門駐車場に止め、歩道を歩いて探すと、飛ばされたあたりに帽子が！拾い上げて見ると、黒いタイヤの跡があった。

キセキその1 2年前の1月娘が京都から長岡京市に引越した日、手伝いに行った私は母からのお年玉(母手作りのポチ袋)を手渡す。娘はズボンのポケットに入れ、急ぎ前の住居へ。ところが帰って来ると、ポチ袋が見当たらないという。そこでまた京都に戻り、あちこち問い合わせするが見つからない。くたくたに疲れて長岡天神駅から家に帰る途中、地面を風に飛ばされてカサカサ踊るようなポチ袋が道端に！中身も入っていた！「時間に余裕を持って行動すること」生かされている!?

それにしても、神様、仏様、天神様、風神様、全ての神様に感謝です。

【松本さんの紹介】：松本さんは、もんぜんぶら座の協働オフィス事務局を知っている数少ないスタッフ。2006年に長野市の委託業務として始めた「生ごみ減量アドバイザー事業を開始するにあたり、パートで来て頂くようになりました。長野市で段ボールによる生ごみ堆肥化を始め、アドバイザーの講座への派遣コーディネーターを中心に担当しています。アサーティブなコミュニケーション能力はコーディネーターにぴったりです。アドバイザーからはあついい信頼があります。

(文責：事務局担当渡辺)

「みどり農園へ行こう！」は独立し、ファーマーに育ちました。

土に触れた暮らしがしたい人
畑や農業に関心がある人
空の下で汗をかきたい人
「食に携わりたい人」

そんな思いのある人たちが集まれる場

これは2008年の寺尾のみどり農園が始まった時のチラシの文面です。2003年の設立以来続いてきたみどり農園は2023年度をもちまして、みどりの市民から離れ、独立した団体として、この4月から運営しています。

みどり農園のルーツは、川中島地区の遊休農地で伊賀築オレゴン種の小麦の栽培から始まりました。

川中島地域に適した小麦で粘りがあり「うどん」にすると美味しいのですが、背丈があり栽培しにくいということで栽培されていませんでした。畑をみどり農園と名付けました。

その後、2007年(平成19年)に松代の清野で一反歩の肥沃な遊休農地でひまわり栽培、そして2008年には北信五岳と北アルプスが見える寺尾の畑でひまわりの栽培。10年間の活動の場であった寺尾の畑は地主さんに返すことになり、2018年に現在の川田の大豆畑へと移りました。

これまで、ひまわりの栽培では、中条村の「つくし」畑のアドバイザーとひまわりの種の保存場所を提供していただいた清野の中澤さん、もちろん畑を快く貸していただいた地主の吉池さん、又川田の畑の地主であり、みどりの市民の監査役でもある橋本さんと様々な人にお世話になりました。

みどり農園では、たくさんの人達との出会いふれあいがありました。参加者は農業の喜び、大変さを知りました。これからは、NPOとしてのみどり農園の活動はありませんが、定款には遊休農地の活動があります。又活動が復活し、農業に関わる人たちへの橋渡しになり、新しい農業人が育つことを期待しています。(H. W.)



お知らせコーナー



《はっこうサロン “IKIKI”》

とき:6月15日(土)10時~12時

ところ:ふれあい福祉センター1Fテーブル

参加費:無料

生ごみ堆肥化上手くない人、発酵に関心がある人、
ごみについてモノ申したい人集まれ はっこうして人生をいきいき《IKIKI》と輝かせましょう!!!

出入り自由、お気軽に参加ください。

事務局へ 事前申し込みください。

エコサロン《大豆料理を楽しもう》

【とき】 6月10日(月)10時~12時

【ところ】 ふれあい福祉センター調理室

【内容】おぼろ豆腐、大豆料理、豆乳を使って

おまけ:へちまの苗を配布 参加費 500円

(材料費)予定

会員のみ

《申し込み方法》

下記みどりの市民の事務局へメール、Tel、faxで、お名前、連絡先をご連絡ください。

みどりの市民の会員数 (2024年5月1日現在)

正会員 37人 賛助会員 12人 団体賛助会員 1団体
〒380-0948 長野市差出南 2-14-23 ブンゲイ印刷3階

TEL&FAX 026-217-0514

E-mail:midoric2023@gmail.com

URL <http://midorinoc.sub.jp/>



《陽だまりの窓辺で》 3月発行予定の64号がようやく編集終了。やっとこ!!2003年から始めたみどりの市民は2024年5月1日で満21年。人間でいえば二十歳過ぎ。さわやかな5月の風とは裏腹に、何ができたのかこれで良かったのか、今回、代表からメッセージをいただき改めて、つい考えてしまう。後は若い人に託そう。強く思う。陽だまりのネコのごとく、寝て過ごせたら。でもでもここがあるから、元気でいられる。やることがあるのは素晴らしい。(h w)